

## 令和元年度第1回 豊田市図書館協議会 議事録

日時：令和元年7月16日（火） 午後2時00分から午後4時20分まで

場所：豊田市中心図書館6階 多目的ホール

出席者：

委員 10名

事務局（教育行政部、図書館管理課） 7名

関係課（学校教育課、保育課、子ども家庭課、次世代育成課、市民活躍支援課）5名  
指定管理者 2名

### （1）図書館運営について

事務局：「平成30年度の事業実績及び令和元年度の取組計画について」説明

事務局：「指定管理者の更新について」説明

委員：入館者の100万人の目標に向けて更に利用しやすい図書館運営を期待する。  
貸出冊数と新規登録者数が減少しているのは残念ではあるが、入館者数が前年度を上回ったのは良い。

42万人の市民の中で何人の登録者がいて、そのうち昨年度中に貸出しを行ったのは何人だろうか。リピーターは相当いると思うが、登録をしたものの利用していない人も大勢いるのではないか。

事務局：平成30年度の全登録者数は367,460人。昨年度中に貸出しを利用した人は7万人ぐらいだったと思う。

委員：図書館に登録するのは、豊田市に住所がないといけないか。

事務局：市内在住に限らない。県内在住、市内に在勤、在学の人であれば可能である。

委員：長年使っていない人でも、登録が残っている人がいるのではないか。長年使っていない人の登録を除外すべきではないか。

事務局：最終利用日から5年が超過した有効期限切れのデータを保持している。久しぶりに図書館を利用したくなった時、昔のカードを引き続き使えるようにするため、現在このように運用している。

委員：個人が重複してカードを作る場合はあるか。

事務局：既存の登録に同じ名前や住所の人がいないか確認をするので、基本的に二重登録して利用カードを増やすことはできない。紛失した場合も同様の対応。

委員：名前や住所が変わった人も、二重登録がないようチェックされるのか。

事務局：現行の運用では、そういう人の場合は必ずしも二重登録を防げるとは言えない。

委員：そこまで利用者のことをチェックしなくてもよいと思う。

委員：グラフを見ると、入館者数が増えたということがよくわかり、大変よろこばしい。その背景には開館時間が長くなったことがあると思う。一人当たりの利用

時間や、どの時間帯にどういう人が来ているのか、把握しているか。データがあれば、企画等に反映させることができると思う。

事務局：ある程度のデータはあるが、現時点では、年齢・性別までは細かくデータを取っていない。昨年度の延長した開館時間での利用者は、10万6千人程度。1割強の方が、延長した時間帯に来ている。

委員：開館時間延長はニーズにあっている。

委員：入館者の人数が増えているが、全体の貸出し冊数が減っている。具体的な人数は。

事務局：中央館の昨年度貸出利用者数は374,037人。

委員：貸出人数が増えているというのはいいことだ。

事務局：直営時代は、貸出人数が右肩下がりで減少していた。指定管理者制度へ移行してから、入館者数は盛り返したが、貸出冊数にはまだ反映されていない。今後は来てくれた人にいかに本を借りてもらおうかが課題になると考える。

委員：借りずに図書館内で本を読んでいく人はいるのか。

事務局：実際にいる。特に雑誌。

委員：涼しくて居心地がいい場所になるほど、図書館で過ごすことを選ぶ人もいるだろう。こういう人達が読んでいく本は反映されない。それも、貸出冊数の全体的に低下しているように見える理由の一つではないか。

事務局：中央館だけだと貸出冊数は増えている。ネットワーク館と合わせると、前年度よりも下がる。

委員：本の利用を、貸出冊数だけで見ているのは良くないのではないか。図書館で読んで、本を買おうと思う人などもいるだろう。

委員：新規登録者数について、転入者などとの関係は。

事務局：昨年度の転入者は約2万人。図書館の取り組みとして、小学校の一年生は一括登録を案内しており、昨年度は2,615人いた。8千人中2千人は新一年生。

委員：蔵書冊数の分類が「洋書」では大きすぎる。豊田市でも多数の言語が使われている。中国語や韓国語はどうなっているか。英語の本以外も蔵書があるとわかれば、図書館に来ようと思える人がいる。多言語について何か情報はないか。

事務局：中国語や韓国語等、外国の本はすべて「洋書」の分類である。4万3千冊の中で一番多いのは英語の本で、1万6千タイトル。次はポルトガル語で、2,300タイトル、その次はスペイン語。全体では30か国語以上の本があるが、少ない言語だと5タイトルというものもあるので、表記の仕方については考える必要がある。

委員：多言語の資料があることがわかると図書館に来やすくなる人はやはりいると思う。豊田市の国際交流の取組としても、洋書の充実を図ることを期待する。

委員：令和元年度がすでに3か月経ち、7つの企画が終わっている。その中のいくつかに参加した。コーヒー等、図書館でこんなことをやるのかと思ったが、楽しかった。宮沢賢治の講座では、いろんな見方があるなと思った。その中で、御

料車の展示とあるが、5階でやっていたのか。

事務局：4階自動車コーナーで展示していた。

委員：期間中に何度か行ったが、気付かなかった。3階から多くの人が入ってくると思うが、その人たちに今何をやっているかわかるようにすると良い。展示を見ている人の人数を把握はできるか。

事務局：貸出冊数による数字で、どれ程の人が見ているのかを把握している。御料車の企画に関しては、展示した本が禁帯出なのでわからない。例えば、花さき山の展示は65回ほどの貸出しがあった。

委員：人の出入りを把握できないか。

委員：スタッフがずっと張り付いているわけにはいかないので、難しいだろう。

事務局：展示の実績は、資料の貸出しのカウンタで見ています。今までの傾向だと、展示のために集めた本は、1回は借りられているのが普通。2回転目の貸出しがある展示は、相当利用者の興味関心が高いジャンル。

委員：企画展示を見た人を対象にスタンプラリーをやるのはどうか。誰が見に来ていのかを自然に把握できるのでは。

委員：スタンプラリーなら利用者の気持ちだけでやれるので、それで把握ができるのならやると良いだろう。

事務局：展示は多数あり、年間通してはスタンプラリーをするのは難しいが、面白い発想だと思う。

委員：全部が無理なら、いくつか絞って利用者把握をするのは良いのではないかと思う。

委員：街なかの連携イベントについては、各自でイベントの広報をやっているのか。

事務局：市役所内の部署だと、各施設の利用者が興味を持ちそうな企画のチラシなどを送り合うことがある。それ以外だと、その事業者には全然関係ない展示の場合は、断られることはある。

委員：説明会に参加する事業者は何社か。

事務局：現在2社の応募がある。

委員：全国でどれぐらい応募資格要件に該当する事業者があるのか。

事務局：10社程度。

委員：3年間続けておおむね適格という評価であり、今の予算と運営方法が次の指定管理者の予算の基準になっていることと思う。予算額は公開しないとのことだが、現状よりも予算が増えていくのか減っていくのかを知りたい。

事務局：予定価格は非公開のため、お答えできない。ただ、全国的にみて人件費が上がっていることから、その部分は上がるだろう。

委員：今の予算でサービスは水準どおりできているのか。

事務局：展示等の広報に改善の余地はあると思う。

委員：民間と市とがどこまでやるかのすり合わせが重要だと思う。新しい指定管理では、市がどこまでやるのかというのはあるのか。

事務局：そもそも指定管理者に移行したのは、10パーセントだった司書率を上げて専門的な図書館運営をしたいというのが目的。司書率や開館時間の延長はお金をかければ直営でもできるが、難しい。改善として行ったのが、指定管理者の導入であるので、今後もそれらが求めていくところである。

委員：企画の広報など、市が介入したほうが良いことがあれば、上手くすり合わせてやっていくことを期待する。

委員：資料購入費は9千万円とあるが、過年度の実績は。予算をどれほど使い切っているのか。

事務局：毎年、9千万円以上の購入を指定管理者にお願いし、実際は9千万円を超えている。平成29年度は100万円程度超過し、平成30年度も数十万円超えて買ってもらっている。

委員：「購入費が余ったら返却するが、超えた場合はお金を出さない」では、事業者の負担になり、買うべき本を買わなくなるのではないか。必要に応じて市から超過分もお金を出したほうが良いのでは。

事務局：9千万円とは、直営時代の最後の3か年の平均で、これぐらい買えば問題ないという数字である。指定管理料をどう使うかは事業者が工夫をするところなので、現在の運用をしている。

委員：購入する本のチェックは教育委員会で行われているのか。

事務局：そのとおり。誤って古い本を買うことなどを、防いでいる。

## (2) 豊田市子ども読書活動アクションプランについて

事務局：「平成30年度事業実績及び令和元年度の取組計画について」説明

関係課：「平成30年度事業実績及び令和元年度の取組計画について」説明

委員：学校図書館司書の研修会とは、具体的にどのような研修をしているのか。

関係課：教職員会館で、学校教育課と図書館管理課の職員が講師をする。ワークショップ形式の調べる学習の講座や、著作権に関する講習を行っている。また、研修資料を共有している。

委員：昨今いじめなどで教室に居場所がない子どもの問題がある。今までだとそういう子どもは保健室に行き養護教諭と話をしていたと思うが、学校図書館司書もそういう役割ができるのではないか。司書としてのスキルだけでなく、子供のメンタルケアのスキルについて研修をしても良いと思う。

委員：こどものメンタルケアに関する研修はしているか。

関係課：司書同士の情報交換でそういう悩みをよく聞く。

事務局：昨年度の研修で、声を掛けられることが嫌な子への配慮や、手伝いたい子に環境整備をお願いしてコミュニケーションを取り、先生方にも報告すると良いとお伝えした。図書室を居場所に行っている子は確かにいる。

委員：大人には、そういった子どもを発見する責任がある。是非ともそういう役割を

- してほしい。
- 委員：色々な情報を知れて良かった。豊田市全体でこういった取り組みをしていると知った上で生徒を受け入れていきたい。高校では、朝の読書会が成果を上げている。
- 委員：中高生による企画はどうなっているか。また、ティーンズ図書の対象とはなにか。
- 事務局：図書館での目安は、本を購入する際の資料に対象年齢が書かれており、中高生向けのをティーンズコーナーに入れている。その他、気軽に読める入門書などを配架している。
- 委員：中高生向けの展示は、時事的なものを行っているのか。
- 事務局：展示に関しては、現在指定管理者に一任してある。時事の展示もあれば、平成を振り返るとして平成に出版された本を年代ごとに展示するという企画も行った。中高生が自分達で行う展示も、年に2、3回やっている。
- 委員：必ずしも全ての小学校がやっているとは限らないが、読み聞かせは、各クラスで行っている。また、25日を親子読書日として、親子で一冊の本を読むということや図書館の本を何冊借りたか、といった取り組みをしている。小学生はよく本を読むが、中学校になると日々やることが多くなって読まなくなる。でも、本が好きになって、20歳以上になって本を読みなおすようになってほしいと思う。
- 居場所づくりは、本が命という子もおり、大事なことだと思う。教員側も、どうやって図書館を使っていくかを課題と捉え、研修を進めている。
- 委員：こども園では毎月本を増やしている。また、保護者に土日に貸し出す取り組みをしている。毎回同じ本を借りる子もいるなど、興味を持っているという保護者の声がある。また、地元の高校が地域を紹介する絵本作りをしており、子どもが地域の大事なことを知るのに役立っている。
- 委員：お話グループ連絡会には、色々なところから読み聞かせなどの依頼がある。ボランティアも図書館で研修をしている。要望があればどこでも行くので、よろしく願いいたします。
- 委員：今年度の調べる学習出前授業は、10校で実施するということだが、15校の応募があったと資料にある。15校全て行くことはできないのか。
- 事務局：図書館の他のイベントや学校側のスケジュールとの兼ね合いもあり、今年度は10校になってしまった。来年度は、できる限り対応する努力はしていきたい。
- 委員：高校生が調べる学習講座にくる機会はあるか。
- 事務局：大人のための調べる学習講座がある。また、昨年度は高校生の応募があったことから、今年度は講座や応募の案内を、市内すべての高校に送付した。

以上